

第1回策定委員会の意見整理

No	区分	策定委員会における主な意見（要旨）	主な論点と、検討・対応の方向
1	計画の名称について	（仮称）台東区産業振興計画の「仮称」はいつ取るのか。	新たな計画の名称については、第3回策定委員会を目途に案をお示しし、ご意見をいただいた後、台東区にて決定する。
2	意見聴取会のテーマ案について	台東区の地域資源について再度確認するプロセスは予定されているか。	台東区は、文化・産業・観光の豊富な地域資源がある中で、それらを一つ一つ確認することは予定していないが、地場産業の集積の現状（事業者数や生産額、出荷額、事業所の分布など）について、整理していく。 【資料4_2（2）参照】
3		意見聴取会で担い手や後継者の不足、技能の承継の課題などを意見聴取してはどうか。	策定委員会と意見聴取会の役割を整理した結果、意見聴取会ではなく、事務局で情報収集を行う。 【別紙「策定委員会・意見聴取会の役割」参照】
4		台東区が持つコンテンツのすばらしさを、デジタルの力で繋げ産業振興を図るという視点も意見聴取会のテーマに入ってくるとよいのではないか。	「地域資源の活用」「事業者間のつながりを強化」をテーマとした意見聴取会において、デジタルを活用した取組みについても意見を聴取する。
5		意見聴取会が3つのテーマだけでは、地道にひとつのことに取り組んでいる人たちの意見が漏れてしまうのではないか。	意見聴取会以外でも、各種事業を実施するなかで、事業者等から意見を伺っていく。 また特に伝統工芸については、台東区伝統工芸振興会と調整し意見交換等の機会をつくる。

No	区分	策定委員会における主な意見（要旨）	主な論点と、検討・対応の方向
6	10年後を見据えた計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな計画は、どのような形で10年後を見据えていくのか。 ・不確実性の時代では、バックキャストという形で、台東区の産業を10年後どうしていきたいという意思を、計画に盛り込むことが良いのではないか。 ・目指すべき姿をしっかりと捉える必要があり、それを踏まえて、10年で何をすべきかを検討していく必要がある。 ・変化に対応していく事業者を後押ししながらも、地道に取り組む方にも下支えできるような計画にしていければよいのではないか。 	<p>第2回策定委員会で、10年後の目指す将来像（目指すべき姿）や施策の現状と課題を踏まえ、施策の方向性等を検討していく。</p> <p>【議題（1）10年後の目指す将来像について】</p>
7	その他	<p>令和6年5月から本格的に元金返済も利払いも始まる事業者が増えることから、この1年が勝負と感じている。そのため、足元の支援を第一義的に考え、並行して来年度からの計画策定をしていく必要がある。</p>	